

朝鮮侵略（肥前名護屋城）



* 毛利家文庫 58絵図827「名護屋城古城跡略図」

解説

豊臣秀吉は朝鮮侵略のための拠点として、朝鮮半島に近く天然の良港をひかえた肥前名護屋の地に、最盛期には人口が10万人を超えたといわれる一大都市を極めて短期間のうちにつくりあげました。

名護屋城はこの都市の中核として、加藤清正以下諸大名の分担で築かれ、当時では大阪城に次ぐ規模を誇りました。城の周囲約3kmの圏内には、徳川家康、上杉景勝、前田利家、伊達政宗など、全国から集まった諸大名の陣屋がつけられました。

写真の絵図は、名護屋城を中心に、その周辺に置かれた諸大名の陣屋と従軍した人数をえがいた略図です。城の南西側に、山口県に関わりの深い大名である「羽柴安芸宰相 三万騎」（毛利輝元）という記述があるのが確認できます。



*（同資料）拡大した部分（上）には、時計回りに「加藤主計頭」（加藤清正）、「福島左衛門大夫」（福島正則）、「上杉越後宰相」（上杉景勝）、「九鬼大隅守」（九鬼嘉隆）、「羽柴小早川侍従」（小早川隆景）などの名前があります。